

成果情報

雲仙普賢岳火山灰荒廃地の植栽に適する樹種						
[要約] 火山噴出物堆積地（緩傾斜）の植栽には、アカマツと落葉樹であるクヌギ・ヤマボウシ・ヤマザクラ・ヤマハギ・ヤマハゼが適している。このうちヤマハギ・ヤマザクラは生長も良好である。ヤマザクラについては、客土量が多いほど <u>生長量</u> ・ <u>生存率</u> 、共に大きくなる。						
総合農林試験場・林業部・森林資源利用科	専門	林業	対象	環境保全	分類	指導
資料名：						

[背景・ねらい]

雲仙普賢岳周辺の火山噴出物堆積地では、航空緑化工により第一段階の緑化がほぼ完了している。しかし、草本類や一部の先駆木本樹種といった単純な植生であるため、防災・景観の面から、郷土木本種を中心とした多様な植生群落の形成を促進する必要がある。そのための効果的な緑化並びに防災林育成法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 植栽後、1年半経過後の生存率が90%を越えた樹種は、15樹種のうちアカマツ・クヌギ・ヤマボウシ・ヤマザクラ・ヤマハギ・ヤマハゼの6種であり（図1）、アカマツ以外はすべて落葉樹である。このうち、ヤマハギ・ヤマザクラは初期の生長量も大きい（図2）。
2. クスノキ・タブノキは、一度先端部が枯れ根本から萌芽生長した苗木が多い（図1）。
3. 半数以上が枯損した樹種は、ヤマモモ（枯損率79.7%）、ヤシャブシ（64.6%）、ヤブツバキ（59.7%）の3種である（図1）。
4. ヤマザクラは、客土量が多いほど、生長量・生存率ともに良好である（図3）。その他の樹種では客土量の違いによる影響は、植栽後1年半の段階では確認されなかった。

[成果の活用面・留意点]

1. 雲仙普賢岳の火山灰荒廃地における植栽樹種の選定に活用できる。
2. 今回の植栽試験はすべてポット苗を使用し、施肥（化成肥料）を行っている。
3. 今回の植栽試験は、比較的平坦地である垂木台地（標高約550m）で行った結果であり、平成14年3月に水無川（標高約400m）で植栽試験を開始したので、傾斜地については今後の結果を考慮することが必要である。

[具体的データ]

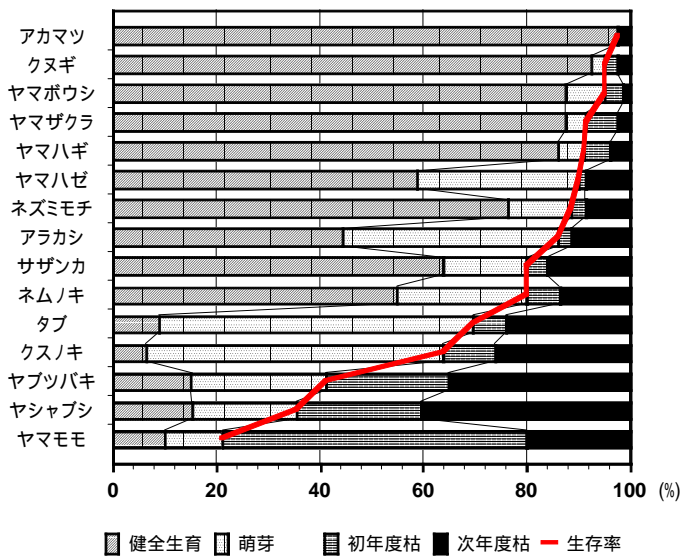


図1 樹種別生存率及び生育状況

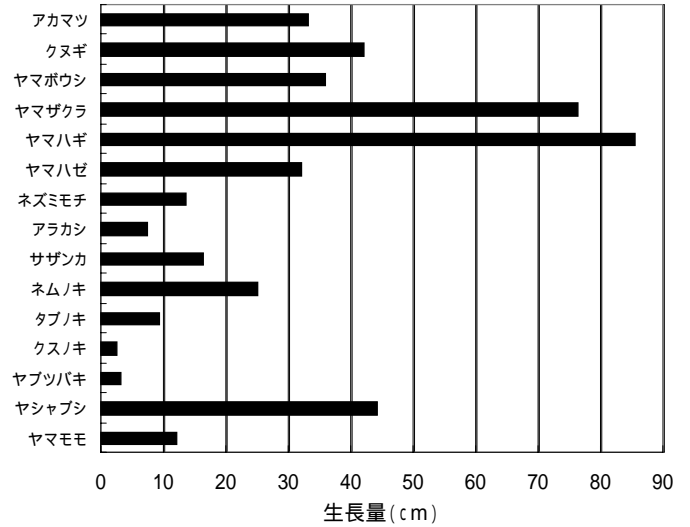
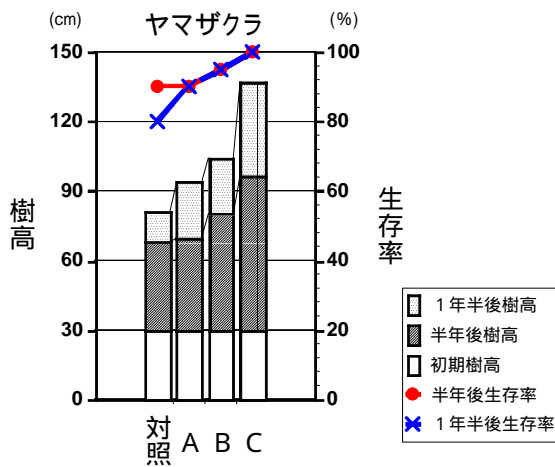


図2 樹種別の樹高生長量（植栽後1年半間）



< 試験条件 >
 対照区：裸出地，客土0リットル
 試験区（A,B,C）：被覆地（草本類）
 A：客土0リットル
 B：客土3リットル
 C：客土6リットル

図3 ヤマザクラの試験条件別生長量および生存率

[その他]

研究課題名：雲仙普賢岳火山灰荒廃地における植生導入試験

予算区分：県単

研究期間：平成10～14年

研究担当者：野崎美和